

## 西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相をゆがめ、否定する発言に対する抗議決議

令和7年5月3日の憲法記念日に那覇市で開催された「憲法シンポジウム」において、自民党の西田昌司参議院議員が、ひめゆりの塔の展示をめぐり、「歴史の書換え」や「沖縄の場合には地上戦の解釈を含めて、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしている」等と発言した。西田氏の発言は、沖縄戦の実相をゆがめ、戦没者や戦争体験者を冒瀆し、県民の尊厳を踏みにじるものである。

沖縄戦体験者の証言や、沖縄戦研究から明らかになってきた事実は、国体護持を至上命令とする日本軍が1944年に配備され、本土決戦を遅らせるため沖縄で時間稼ぎの持久作戦を続け、本土防衛のための「捨て石」にされたと沖縄県史などに表現されている。日本軍によって旧制中学校や旧師範学校の生徒たちが、ひめゆりをはじめとする学徒隊や鉄血勤皇隊などとして戦場に駆り出され、多くの犠牲者をだしたこと。さらに、首里城の地下に造った司令部を放棄し、住民が避難していた本島南部に撤退した結果、軍民混在の状況の中、住民を巻き込んだ激しい地上戦となり、県民の4人に1人の尊い命が奪われた。

米軍の上陸地点となった北谷町発行の「北谷の戦時体験記録」によると、戦争犠牲者の中には、直接米軍の砲爆撃等による被爆者だけでなく、日本軍に「食料強奪」「壕追い出し」「非国民・スパイ視容疑」などで死に追い込まれた沖縄県民が多数いたことは、その聞き取り調査による戦時体験証言がある。これらは日本軍の作戦による紛れもない歴史上の事実である。

また、西田氏は憲法シンポジウムという場で、「要するに、日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり隊が死ぬことになっちゃった。そしてアメリカが入ってきて沖縄は開放された」と述べ、「自分たちが納得できる歴史をつくらないと」と発言している。西田氏の発言は、沖縄戦の実相を認識せず、歴史を修正しようとするものである。

西田氏は「ひめゆりの塔」に言及したことを「TPO(時、場所、場面)をわきまえるべきだった」と弁明したが、沖縄の歴史教育や平和教育を非難した根幹部分は謝罪も撤回もしていない。これまで本町議会は、「沖縄戦での日本軍」による記述について、「歴史的事実である県民殺害の記述が削除されたことは容認し難い」として「教科書検定に関する意見書」を全会一致で可決している。西田氏に求められるのは、戦後80年たった今も、癒えることのない戦争体験者や遺族の深い悲しみの声に真摯に向き合い、沖縄戦の実相・史実を正しく認識することである。

よって、本町議会は、再び沖縄を戦場にさせないことを表明するとともに、戦没者や戦争

体験者を冒瀆し沖縄県民の尊厳を踏みにじる西田昌司参議院議員の発言に対して、満身の怒りをもって抗議するとともに、下記の事項を強く要求する。

## 記

- 1 西田昌司参議院議員は、史実に基づかない自身の発言や認識が、ひめゆり学徒隊や沖縄戦体験者の証言をゆがめ、否定するものであったことを認めた上で謝罪し、発言を撤回すること。
- 2 自由民主党は、ひめゆり学徒や沖縄戦体験者の証言をゆがめ、否定した西田氏への厳格な処分を行うと同時に、党としての沖縄戦への認識を示すこと。
- 3 自由民主党は、党所属議員が歴史の事実や戦争被害に対して無理解な発言を繰り返すことの重大性を直視し、再発防止のため、党内教育体制の再構築を速やかに実施すること。

以上、上記のとおり決議する。

令和7年6月10日

沖縄県中頭郡北谷町議会議長 仲地 泰夫

あて先 参議院議員西田昌司 自由民主党総裁石破茂